

キリスト教学特殊講義****

S.Ashina

<オリエンテーション>

A: テーマ

「キリスト教思想における「自然」をめぐるの諸問題」

B: 講義の意図 (なぜ「自然」なのか)

(1)これまでのキリスト教思想研究のテーマとの関連で

(2)キリスト教思想における「自然」の問題群(自然 - 秩序 - 創造)の決定的な位置づけ。聖書の神は経験の全体性との関わりを要求する。二重真理はキリスト教思想としては不健全である。

(3)現代の科学技術文明の問題、とくに現代を特徴づける倫理的諸問題の中で、「キリスト教と自然」というテーマは顕在化してきた。

21世紀のキリスト教思想に対しては、キリスト教の新しい自己理解をどのように構築するのが問われている(宗教的多元性・複数文化におけるキリスト教、ジェンダー、環境など)。これは、「自然」の問題群から整理可能である。

情報化と現代人の日常性・日常的な現実感覚の変容 宗教の存在意味の問い
生駒考彰 『インターネットの中の神々 21世紀の宗教空間』(平凡社新書)**C: 「自然」の問題群**

キリスト教的現実の全体性 = 被造物としての人間の生きた現実とその全体としての自然

分節(二項図式)

超自然	-	自然
神(恩恵・神秘)		
創造		被造:内(自然本性)と外(大自然・宇宙)
		本質
摂理・予定		歴史・精神:現象
終末		人間の活動・行為
		文化・意味世界
		実存:悪・不幸

認識・対象化

啓示		
信仰	-	理性

知の領域(自己参照性)

(啓示)神学 - 自然神学 - 諸科学

自然哲学 / 自然科学

精神科学、歴史学

知の相互関連・コミュニケーション

実践・行為(理論 - 実践)

D : 2001年度の講義予定

「自然」の問題群より:

1. 文化から自然へ: マクフェーグ、リクール、ティリッヒ
2. 自然神学 / 自然の神学
自然神学とは何か: ペリカン、プランティンガ
自然の神学の構築へ: ティリッヒ、パネンベルクなど
3. エコロジー・環境倫理とモデル・神秘主義
シュヴァイツァー、ノーリジのジュリアン(Julian of Norwich)
4. 近代科学とキリスト教思想: ニュートンとニュートン主義の場合

第一章: 文化から自然へ

- 自然はいかなる仕方でキリスト教思想の問いとなるか -

1. マクフェーグの隠喩神学と自然の問い
2. ティリッヒの文化の神学と自然の問い
 - 2 - 1: なぜ文化の神学が、自然はいかに問われるのか
 - 2 - 2: ティリッヒと自然の問い

第二章: 自然神学の諸問題

1. 自然神学は過去の遺物か?
2. 自然神学とは何か - 歴史的起源 -
3. 自然神学をめぐる諸立場
 - 3 - 1: 自然神学批判(哲学的な)

アンセルムスの論証	ヒュームの自然神学批判
ヒュームにおける自然神学批判のまとめ	カントの自然神学批判
 - 3 - 2: 自然神学批判(神学的な)

バルト神学と自然神学	バルトによるアンセルムス解釈
バルト神学の学的性格	
 - 3 - 3: 自然神学の再建に向けて

本年度は、次のような内容が予定されている。

序: キリスト教思想と自然の問い

アインシュタインの宗教論を手がかりに

第三章: キリスト教思想と環境倫理

- 1: 問題状況 - 環境破壊とキリスト教の責任 -
- 2: 創造物語における「自然」の支配
- 3: キリスト教的創造論の展開と自然理解
- 4: 新しいキリスト教倫理と神秘主義

- 4 - 1: ノーリジのジューリン
- 4 - 2: シュヴァイツァーの「生命への畏敬」
- 4 - 3: キリスト教倫理における責任論

EXKURS 1: (宗教言語と自然のモデル
2: ティリッヒとエコロジーの問題

第四章: 近代科学とキリスト教

- 1: 近代キリスト教の歴史的状況
- 2: 神学者ニュートンと自然神学
- 3: ニュートン主義と理神論
- 4: キリスト教の合理性をめぐる

E: 注意事項

- 1. 休講について
- 2. 成績評価: 学年末のレポート